

富山市地域公共交通活性化・再生総合事業

事業期間
平成21～23年度

富山市では、今後の人口減少・超高齢社会の到来や環境負荷の増大等の課題に対応した「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を推進するため、都心部を中心にLRT化等による公共交通の利便と魅力の向上、さらには、まちなかの活性化に向けて、まちづくりと一体となった公共交通の活性化策に取り組む。

富山市都市交通協議会

(構成員:富山市、富山県、北陸地方整備局、北陸信越運輸局、富山県警、JR西日本(株)、富山地方鉄道(株)、富山ライトレール(株)、(株)まちづくりとやま、道路管理者、有識者、商工関係者)

事業の概要(21年度)

① 市内電車環状線化事業

796,373千円



市内電車の環状線化にあわせ、
新型の低床車輛(LRV)を導入

② 中心市街地活性化

コミュニティバス運行社会実験

4,990千円



運行ルートを見直し、新ルート
での社会実験運行を実施

③ 交通系ICカード導入推進事業

271,580千円



富山地方鉄道が運行する路面
電車へ、ICカードを導入

④ 富山ライトレールイベント電車運行事業

3,905千円



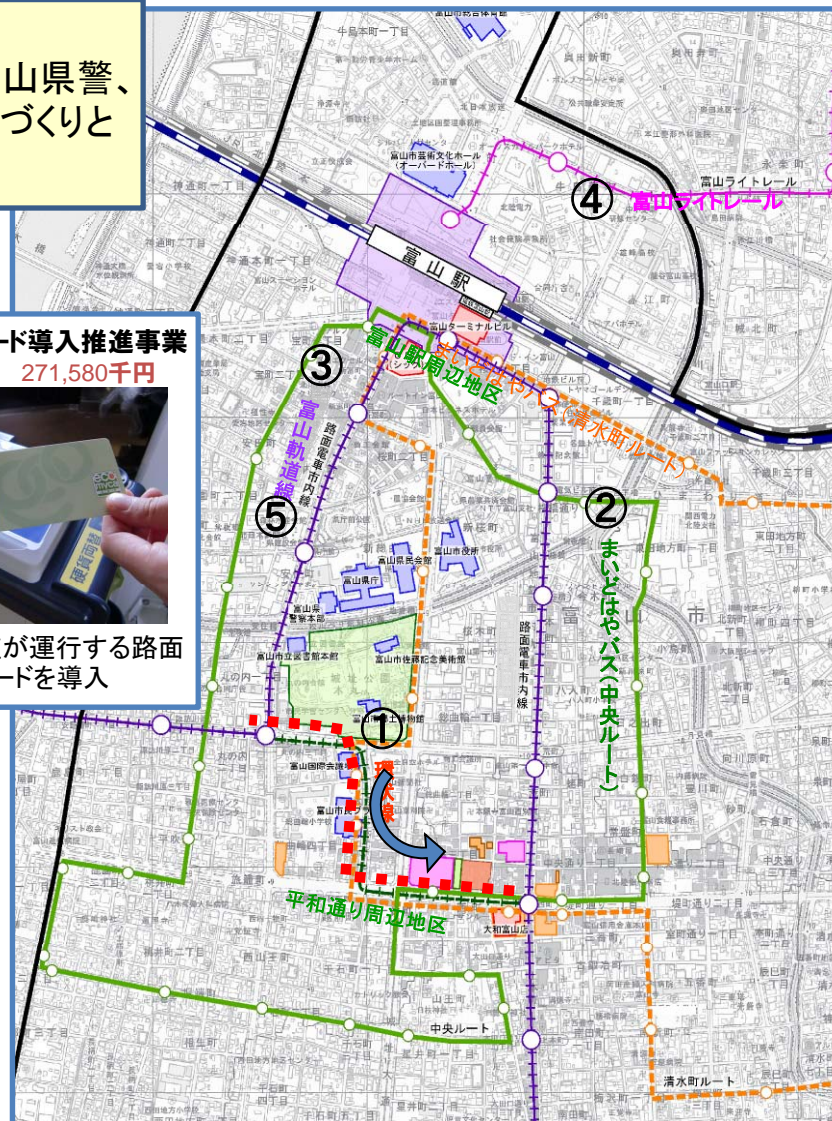
イベント等と連携し、車両や電停に
装飾を施す

⑤ 市内電車活性化事業

245,000千円



富山地方鉄道が運行する路面電車へ
新型の低床車輛(LRV)を導入



21年度 導入への プロセス

背景

富山市では少子高齢化に対応した「公共交通活性化によるコンパクトなまちづくり」を推進しており、実現のために戦略的に取り組むべき公共交通活性化策を明らかにした、富山市公共交通活性化計画を平成19年3月に策定。

本計画の実現に向けて平成19年11月12日に富山市都市交通協議会を組織し、事業推進にかかる合意形成の円滑化に努めた。

ICカードについては、利用者(利便性向上(ex.小銭必要なし))、交通事業者(運行時間の短縮による遅延防止、現金管理業務減少によるコスト縮減等)、商店街等地元地域(来街者増加等)それぞれメリットがあり、地域経済の活性化の観点からも重要なツールであることから、ICカードの導入をするものである。

○富山市では、**鉄軌道をはじめとする公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを推進**しており、公共交通活性化の戦略プロジェクトの一つとして市内電車の環状線化を位置付けている。

○市内電車の環状線化事業は、

- ①富山駅周辺地区と平和通り周辺地区のアクセス強化
- ②都心地区全体の回遊性と魅力の向上
- ③南北路面電車連結後のネットワーク形成

3つの目的を達成するために必要不可欠であった。しかし本事業は、既存の軌道網の一部を延伸し環状線化することから、既存の事業者による一体的な運営が望ましいと考えられたものの、軌道法においては「軌道の設置」と「運行」は同一の事業者が行う必要があり、おしなべて経営が悪化している地方の事業者には、初期投資は非常に困難な状態であり、収支採算が課題となっていた。

○「地域公共交通活性化及び再生に関する法律」の成立が転機となり、**軌道運送高度化実施計画の認定を受けることにより、軌道における上下分離方式が可能**となった。本事業においては、**施設整備を公共(富山市)が担い、運行は既存事業者が担うことにより、収支面からも持続可能な運行が可能**となることを見込まれたため、全国初となる軌道における上下分離方式によって、市内電車環状線化事業を実施した。

○「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」の必要性を100回以上のタウンミーティングで市民に説明しており、今回の環状線化事業においても多くの市民に理解してもらった。また、すでに開業している**富山港線のLRT化(富山ライトレール)について、全市民の80%以上が「評価している」というアンケート結果も当該事業の推進に寄与しているものと思われる。**

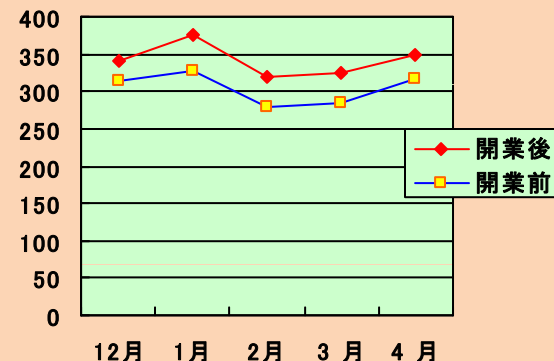
市内電車環状線化による利用促進



市内電車環状線の開業にあわせ、新型の低床車両(セントラム)3編成(黒、白、銀)を導入した。

平成21年12月23日の開業以来、乗降客数は順調に推移しているが、3つの新電停の平成22年4月末までの全日平均乗降者数1,075人/日に対し、**特に休日の利用者が1,532人/日(平成22年4月)で平日を大きく上回る**など、路線の性格から狙い通りの傾向が表れており、今後も中心市街地における賑わい創出の装置として、活躍することを期待している。

千人 富山市内軌道線全体の利用者数



21年度 事業の 効果

21年度 事業の 効果

利便性の向上(ICカード)

富山地方鉄道(株)が運行する市内電車(環状線を含む)にICカード「ecomyca」を導入した。



・販売実績(平成22年4月末現在)

わずか1ヶ月余りで販売枚数が 7,000枚以上に到達

・富山軌道線における精算方法のICカード精算占有率

ICカードでの精算は、3月6%、4月25%と伸びているところ。ICカード導入前に販売した定期券の更新期日を迎えるH22年9月14日以降は100%がICカードでの精算となる。

・トラムカード(既存の磁気カード)廃止により、磁気カード節減に寄与し、環境保護に貢献

・富山地方鉄道の「ecomyca」は、**導入当初から富山ライトレールの「passca」との相互利用を実現**したことにより、利用可能範囲が富山地方鉄道の富山軌道線、富山ライトレールのポートラム、フィーダーバス、まちづくりとやまのまいどはやバスと利用可能範囲を広げることができ、カード利用者の利便向上に繋がった。

地域イベントとの連携

富山ライトレールの利用促進を目的に、車両ラッピングや、電停装飾を実施した。

《車両ラッピング》

開業3周年記念イベント、
グリーン電力で走る「とやまグリーン tram」、
バレンタイン・ホワイトデー

《電停装飾》

ウェルカムフラワー(夏・秋・冬)、
開業3周年記念イベント、
バレンタイン・ホワイトデー

車両のラッピングや電停装飾をすることで各種メディアに大きく取り上げられ、平成21年度ではのべ54件の新聞報道がなされた。



ウェルカムフラワー(冬)
グリーンイルミネーション

このような報道により、ラッピング経費以上の宣伝集客効果があったと考えられる。

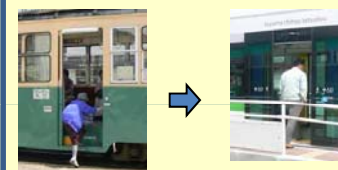
公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりのために

市内電車環状線化事業では、今後もコンベンションの誘致に努めるほか、地域と連携した中心市街地でのイベントを実施するように取り組んでいく。

「ICカード活用商店街ポイントサービス社会実験」(passcaの利用拡大事業)に、富山地方鉄道の「ecomyca」も利用対象として参加を予定しており、富山市の中心市街地、商店街および公共交通の活性化に向けた施策に、富山市やTMOである(株)まちづくりとやまや商業者と共に取り組んでいく。

富山市では総合事業による取り組みの他、**コミュニティバスの社会実験、コミュニティサイクル導入事業など、様々な事業を総合的に進める**ことにより、公共交通の利便と魅力の向上、さらには、中心市街地の活性化を推進した。今後も持続可能な交通体系の確立を目指し、まちづくりと一体となった公共交通の活性化に取り組む。

環状線以外では、**新型低床車両は第1系統170本/日のうち、18本/日(約1割)しか運行していない**ため、引き続き、低床車両の更新をすることが課題である。



次年度 以降